



公益社団法人
宮城県芸術協会
(郵便番号 980-0802)
仙台市青葉区二日町16-1
二日町東急ビル5-B
電話 (022) 261-7055
FAX (022) 214-5184
E-mail:miyagi-geikyo@sunny.ocn.ne.jp
発行者 雫石 隆子

昭和 40 年 1 月創刊された「はなやま」の題号は、芸術協会の創設が、昭和 39 年 5 月 9 日に宮城県花山村（現栗原市花山）の湖畔亭で開かれた会合で決まったことにちなんで付けられました。

**令和3年度定時総会
2年ぶり、通常の形式で開催
コロナ下、報告、議案を承認**

令和3年度の当協会定時総会が6月12日、仙台市青葉区の市福祉プラザで開かれた。前年度は未知の新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、理事らに出席者を限定しており、通常の開催は2年ぶり。宮城・仙台市で一時、感染がまん延し、開催が危ぶまれたが、動向を慎重に見定



通常開催となった定時総会

めた上での判断。感染防止策を徹底し、滞りなく終えた。総会には1259人（委任状の1183人を含む）が出席した。司会の吉田利弘執行理事が総会時点の会員数1927人の過半数を上回り、総会成立の要件を満たしていることを報告した後、雫石隆子理事長があいさつ。「東日本大震災から10年の節目。コロナ禍の影響は残るが、前年、不安を乗り越えた実績を踏まえ、芸術祭を成功に導き、文化芸術の振興発展に前進したい。今後の活動の礎、河北との連携公募展も2年目で、協力関係を深めて正念場を乗り越えたい」と、組織の維持、発展に向けて大事な局面にあることを強

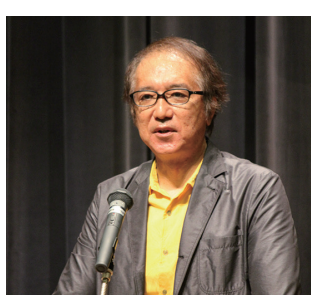
調し、会員の結束を求めた。続いて、金澤孝一会員（文芸部・短歌）を議長に選出。次報告は「令和3年度事業計画及び収支予算について」の1件。直木賞作家の熊谷達也氏（仙台市在住）を講師に招いた記念講演会が6月12日、定時総会に先立って、仙台市福祉プラザを会場に開かれた。総会への参加を促すとともに、今後の創作活動に生かしてもらおう会員研修に位置付けられる恒例の企画。昨年も熊谷氏に講師を依頼したが、コロナ禍で見送った経緯があり、今回、2年越しで実現した。演題は「言葉を磨る」。深い意図を予感させ、関心を高めた。熊谷氏は歩みを振り返りつつ、「本当にやりたいこと」を追い求めた結果として小説家になどり着いたことを強調。以来、四半世紀。著書43冊を発刊し、生

副、会員の結束を求めた。続いて、金澤孝一会員（文芸部・短歌）を議長に選出。次報告は「令和3年度事業計画及び収支予算について」の1件。

佐藤皖山、菅原宗初両執行理事がそれぞれ担当の内容を説明。定款に基づいて理事会で既に承認されていることを報告した。議案は「令和2年度事業報告及び収支決算について」の1件。佐藤、西村一観両執行理事が事業と決算に分けて説明し、岡本勝監事が適正に執行されている旨、監査報告を行った。報告、議案とも異論はなく、了承、承認された。総会では前年度同様の開催に

も備える形で準備した。当協会には、コロナ禍と会員数の微減傾向に歯止めがかからない厳しい現実を直視し、連携公募展の推進等、効果的な方策を求めて模索を続ける途上にある。共に汗をかき、知恵を出し合い、「宮城の芸術文化の振興発展に寄与する」社会的に意義ある組織として、存在感を高めていきたい。総会には理事会推薦の理事、一力雅彦河北新報社社長も出席。連携強化の姿勢を示した形だ。

**熊谷達也氏、記念講演
言葉に向き合う覚悟示す**



み、苦しみを伴いつつ生き残れていることを感慨深く語った。自らの作家観を織り込みながら、熊谷氏は東日本大震災を作家寿命が延びた転機の一つに挙げた。震災をモチーフとした「仙河海シリーズ」を終え、「長く書いてきたものをゼロに、いったん葬ろうと考えた」と述べ、「新しい何かを生み出せれば、今後小説家として生きて行け

る」と言葉をつないだ。新たな境地に向かう小説家として退路を断つような覚悟がにじむ内容。熊谷氏は朴訥、淡々とした口調ながら、言葉、言語に向き合う表現者の厳しさを示し、その手法は異なっても同じ芸術の世界で多様な創作活動に勤しむ会員らに大いなる共感と更なる飛躍への示唆を与えた。熊谷氏は仙台市出身。東京電機大を卒業後、教員などを経て文壇デビュー。直木賞と山本周五郎賞とのダブル受賞となった『邂逅の森』をはじめ、『ウエシカミイの爪』『漂泊の牙』など多くの作品を発表。在仙の著名な作家の一人として幅広く活動している。



第58回宮城県芸術祭委員会

「通常開催」に近づける 県芸術祭委員会を確認 コロナ下での実績を力に

令和3年度の県芸術祭をめぐり、主管の当協会をはじめ共催8団体の代表者らが協議する「第58回宮城県芸術祭委員会」が6月7日、芸協会議室で開かれた。新型コロナウイルスの感染が収束せず、リスクは排除し切れないものの、ワクチン接種の進展は明るい材料。前年度の

経験知も大きく、より安全・安心な開催に向けて、工夫を凝らしながら、質の高い事業計画を練り上げる方針を了承した。宮城県・仙台市への「まん延防止等重点措置」の適用が解除され、感染状況が幾分、落ち着きを取り戻す中で開かれた同委員会。当協会、県、仙台市、河北新報社など市教委を除く7団体の委員らが出席した。

会長兼実行委員長の雫石隆子理事長が「前年度の経験を踏まえ、感染予防策の徹底を図りつつ、可能な限り通常の開催を目指したい」とあいさつ。続いて令和2年度「第57回宮城県芸術祭」の事業及び収支について報告。本年度、第58回芸術祭の事業計画等を協議した。

事業計画では、前年度、コロナ禍により開催を見送った音楽会などで実施の方針が決まり、通常開催に一步近づいた。当該年度の事業計画及び収支予算は、実施が前提で、当協会の示す内容を確認する形式にとどまることが通例。ただ、今回は前年度に続いて、コロナ禍が尾を引いており、依然、慎重な対応を求められる状況下にある。会議では、当協会が前回の芸

術祭における新型コロナウイルス感染対策を詳細に報告し、本年度芸術祭の主な対応策も説明。協議の結果、コロナ感染の動向を注視し、「安全・安心」を最優先に取り組みとの方針を踏まえ、掲げた事業の実施に向けて準備を進めることを申し合わせた。事業の実施にすんなり賛同が得られた背景には、トラブルもなく、大きな成果を残した前年度の実績がある。他団体で多くの催事が中止に追い込まれる中、感染予防を徹底しながら、多くの芸術家（愛好者）や県民・市民に参加と鑑賞の機会を提供。芸術団体として、一つの範を示したことへの明確な評価にも映る。

こうした期待を受けて、当協会は前年度にも増して、危機管理を徹底した上で、より充実した催事の実施を求められる。後日開催の各部長らによる部長会議（実行委員会）に、芸術祭委における決定内容を報告するとともに、開催を通じた事業目的の完全履行を確認し合った。（5面に関連記事があります）

東日本大震災から10年。絵画部、文芸部、写真部が節目に即した企画を続々、打ち出した。令和3年度の事業計画及び予算編成の方針で、震災10年を意識するなど、適時性重視の事業構築をうたっており、多彩な芸術で区切りの時を刻む。絵画部は、兵庫県洋画団体協

詳細を協議し、今後、催事の「安全」と「充実」の貫徹に向けて、具体的な準備に取り掛かることを申し合わせた。吉田利弘執行理事が司会を務め、雫石隆子理事長のあいさつの後、佐藤皖山執行理事が県芸術祭委員会における協議内容を報告、説明し、議事を進行した。各部長らは協会の基本方針を了承。活動状況、事業計画を報告した。前年度のコロナ禍における「実績」「成功体験」を自信に、事務局と調整を行いつつ、企画・運営の細部を詰めていく。震災10年に即した活動への予算措置、吉林省との交流事業、県制150周年記念事業についても、周知を図った。

写真部は、「フォトサミット in Sendai 2021」で、従来の「自由」「東北の音」の2部門に特別部門「東日本大震災から10年」を設け、募集する。芸術祭写真展で企画展「震災10年を振り返って」も実施する。工芸部も宝塚市手工芸協会（兵庫県）との交流展示実施で調整中。このほか、現段階で未定ながら、震災10年に関わる作品発表等もあるとみられる。

「芸術祭、安全と充実目標に部長会議で完遂申し合わせ」

震災10年で企画相次ぐ

絵画部、文芸部、写真部 節目意識し存在アピール

令和3年度第1回部長会議が6月28日、芸協会議室で開かれた。イベント開催を裏付ける、「第58回宮城県芸術祭委員会」での事業計画及び収支予算の決定を受けて、実働部隊が事業の

オンラインで初実施

東北・北海道芸文協総会、交流事業 会議室から人材育成の事例を報告

当協会が加盟する「東北・北海道芸術文化団体協議会」は6月17日、令和3年度の総会と交流事業を、幹事を務める岩手県（一般社団法人岩手県芸術文化協会）と各県道の団体事務所を結ぶ初のオンライン方式で開催した。新型コロナウイルスの感染防止を図るため、2年度に続いて参集、対面による事業の実施を見送った。

当協会は会議室から参加。芸文協副会長の雫石隆子理事長のほか、複数の執行理事が同席した。令和4、5年度、輪番制により芸文協の幹事を務め、理事長が会長に選任される方向で、運営等に慣れておくためだ。

総会は午後1時開会。令和2年度事業報告並びに収支決算、監査報告（当協会が担当）、3年度事業計画（案）及び収支予算（案）、役員を選任などを審議、いずれも全員賛成で承認した。

機関誌「北斗」の次号（46号）テーマ等については、45号で北海道、青森県、岩手県、秋田県

の4道県の次世代育成に関する事例報告を特集しており、46号でも総会に続く本年度の交流事業で内容が示される宮城、山形、福島3県の事例報告を掲載するとの方針を了承した。

4年度、芸文協が創設50年を迎えることから、当協会の提起に基づいて、記念事業開催（周年の場合は5年度）の是非及び内容についても協議。この日は具体論に踏み込まなかったが、実施の方針を確認し、続いて、



オンラインで行われた芸文協総会、交流事業

方向性の検討を当協会に委ねた。引き続き交流事業を実施。

「文化芸術活動の後継者育成と次世代育成について」のテーマで、当協会など3団体が取り組む事例を報告した。

当協会は事務局長が芸術祭公募展をはじめ人材育成をめぐる諸事業を概括的に紹介。特に、昨年度、河北新報社と連携し始めた写真と工芸の公募展、並びに本年度、共催事業として新規に取り組む「宮城県各流子ども舞踊発表会」と「宮城県子供三曲演奏会」の意義を強調した。

報告後、活発に意見交換。芸術文化を取り巻く環境が大きく

二つの連携公募展 準備作業着々と

正念場の2年度目、漂う緊張感

河北新報社と連携して取り組む二つの公募展、「フォトサミット in Sendai 2021」と「杜のみやこ工芸展」の開催に向けた準備作業が熱を帯びている。昨年、上々のスタートを切った両公募展も令和3年度、今後を占う正念場を迎える。経験という何よりの財産を生かしながら、緊張の2年度目に突き進む。両公募展は初年度の検証を踏まえて、既に要項を策定し、前

文芸部は10月23日に東京エレクトロンホール宮城で開催する文芸祭に関連し、講演会を開く。東日本大震災から10年の区切りに当たることから、特別企画として記念講演会を開催することにした。講師は東北大名菅教授で初代東北大災害科学国際研究所長、前宮城学院女子大学長の平川新氏を予定。演題は「災厄と共にある人間の歴史」。震災10年を歴史家の視点でどうとらえるか、新型コロナ禍も絡ませながらの興味深い講話となる見通しだ。

文芸祭で講演会
講師は平川新東北大名菅教授
震災10年記念し開催

感染防止に留意する必要があるものの、文芸部以外の会員や一般県民も参加できる。事前申し込み等も不要。

変容、厳しさを増す中で、その維持、発展に向けた人材育成の重要性、緊急性を訴える声が相次ぎ、認識と情報の共有を推進力に、連携して課題に取り組む意思を確認し合った。

芸術祭工芸展と同じ10月28日～11月1日にTFUギャラリートニモリで開かれる杜のみやこ工芸展。実行委員長の雫石隆子理事長、委員兼企画委員長の樋田隆工芸部長、河北の菅原部長らが出席し5月17日、実行委員会を開いた。初年度の実績を基盤に、公募展の更なる充実を目指す意思を明確にした。

フォトサミットは応募作品の分類・整理を経て、8月10日に写真家の赤城耕一氏らによる審査会を予定。佳境を迎える。工芸展は9月末まで応募を受け付けており、当面、期待と不安が入り混じる日々が続く。

次世代育成の新機軸

第1回子ども舞踊発表会を共催 10社中、26名が晴れのステージ

参加する子どもたちの意欲と技量を高めるとともに、広く県民に鑑賞する機会を提供し、日本舞踊を次世代につなぐ契機にしよう」と、「第1回宮城県各流子ども舞踊発表会」が6月27日、仙台市の戦災復興記念館・記念ホールで開催された。

公益社団法人日本舞踊協会宮城県支部（水木歌泰支部長）が主催し、当協会などが共催した。次世代育成の重要な事業として認知、定着に向けた第1回の舞台には、当協会の若柳梅京理事、花柳寿美舞踊部副部長らが率いる社中をはじめ各流10社中の4歳から中学3年生までの26名



舞踊発表会

が出演。1社中、1名が体調を崩し参加を見送った。各社中がそれぞれ独自に舞踊大会やおさらい会を開催し、顔なじみの子どもたちが舞う機会を得ることはあっても、流派を

環境激変、継承の意味重く 事業に厚み、宮城県子供三曲演奏会も予定

公益社団法人への移行に伴い、「公益性」の追求が強く意識される中で、次世代対応の新たな人材育成事業がスタートした。6月に開催された「第1回宮城県各流子ども舞踊発表会」。「宮城県子供三曲演奏会」も年度内開催へ、準備が本格化する。二つの事業は、前者が（公社）日本舞踊協会宮城県支部、後者が仙台三曲協会（渡辺悦子会長）の主催。伝統文化の継承、次世代の育成を目指す趣旨に賛同、当協会が共催に加わった。

当協会が関わる人材育成事業は幅広い。芸術祭の中で絵画、彫

超えて少女少女らが集い、共演することはまれ。いつもとは雰囲気異なり、緊張と刺激に包まれた晴れのステージは、向上心を引き出し、技芸を高めて、成長を促す絶好の機会となる。子どもたちはあでやかで華や

いだいでたちで舞台上に登場。金屏風などの前に立ち、日頃の稽古の成果を披露した。新型コロナウイルスの感染が収束せず、かつてない困難な環

境下で稽古を重ねてきた子どもたち。ふだんの無邪気な姿が一変、かわいらしくも大人びた舞い姿が感動を呼んだ。感染防止の見地から、入場者は収容能力の半分（140名）に制限。より多くの県民に見てもら

った趣旨が十分に生かし切れなかった側面はあるが、精進を重ねた者同士の交流は貴重で、学びの継続に向けた保護者らの理解の増進にもつながったはずだ。

環境激変、継承の意味重く事業に厚み、宮城県子供三曲演奏会も予定

刻、文芸、写真部が公募を実施。洋楽部も音楽コンクール（ピアノ、ヴァイオリン）を手掛ける。写真部は高校の部活動と連携、秀作を展示するほか、昨年度「フォトサミット in Sendai 2020」を開催、注目度を高める。工芸部も芸術祭とは別に

全国公募展「杜のみやこ工芸展」を開始。華道部が設ける「チャレンジ席」も人材育成の一環だ。舞踊、三曲の二つの事業は、子どもたちに参加を限定しており、後継者育成、次世代育成の色彩がとりわけ濃い。音楽コンクールと対象は共通するが、危

機感にも裏打ちされた、伝統文化継承への思いは熱い。人口減少の加速、少子高齢化の進展、経済の低迷、暮らしの変質、趣味嗜好の多様化、スピード感重視の価値観の台頭等、伝統文化を取り巻く環境は確かに厳しい。ただ、大半の要因は芸術の各分野に共通し、あすはわが身、人ごとではない。

それだけに、新規事業の重要度は高く、内外で関心を呼ぶ。成果への期待感も膨らむ。舞踊発表会は、評価に堪える実績を残したと言っている。10社中がそろって舞台を彩

日舞協会県支部は、全国に先駆けて1960（昭和35）年に創設された。宮城県は「日舞先進県」として伝統文化を次代に引き継ぐ使命を帯びる。事業の企画、運営に携わった若柳理事は「初舞台に臨んだ子どももおり、出演者は今後の励みになったでしょう」と話し、育成効果に手応えを感じた様子。水木支部長も「今後も毎年開催していきたい」と語った。

り、団結が強まったはず。社中が幅広く参加したことも、先々の当協会の部門内拡充に希望をつなごう。第8回で当協会が初めて共催し、明年3月27日、仙台市福祉プラザで開かれる三曲演奏会も後に続いてほしい。

当協会が「公社」に移行して9年目。直接的な社会貢献が求められる立場への理解が進む。若者ら次世代育成は、貢献策の主軸の一つ。意義深い取り組みは、協会の維持、発展はもとより、各芸術文化の今後の生き残りにも通じよう。

新規事業の先行事例から学ぶことは多い。継続は力。課題を掘り下げ、より充実した催事に成長させて、先例の価値を一層高めたい。

新規事業の先行事例から学ぶことは多い。継続は力。課題を掘り下げ、より充実した催事に成長させて、先例の価値を一層高めたい。

新規事業の先行事例から学ぶことは多い。継続は力。課題を掘り下げ、より充実した催事に成長させて、先例の価値を一層高めたい。

県制150周年 記念事業に協力 連絡協に協会も参画

宮城県は5月19日、「県制150周年記念事業推進連絡協議会」を立ち上げ、当協会の理事隆子理事長がメンバーとして加わった。宮城県成立の節目を祝い、活性化につなげる事業の趣旨に賛同、令和3、4の2カ年度にわたり、関連事業に取り組み、幅広い企画に彩りを添える。「仙台県」を改称、「宮城県」に変更したのは明治5（1872）年2月16日。明年（1872）年2月16日。明年早々、150年の節目を迎えることから、重ねた努力と歴史を振り返り、地域の魅力を再発見し、豊かな個性を内外に情報発信することで、新型コロナウイルス禍で落ち込む観光のテコ入れ、一層の誘客促進と地域活性化への弾みとする。

連絡協は当協会を含め、19団体で構成。協議会の下に幹事会を設けた。県は記念行事、記念誌の発行、ロゴの作成、観光キャンペーンを企画し、各団体も関連事業の実施を目指す。

発会を兼ねた第1回協議会では、県制100周年記念「宮城の100年」を上映した後、村井知事があいさつした。県が事業

令和3年度の宮城県芸術祭をめぐり、6月7日に芸協会議室で開かれた共催団体の代表者らによる「第58回宮城県芸術祭委員会」で、芸術文化の振興発展に向けて、情報交換を行い、認識の共有を図った。

宮城県、仙台市、河北新報社など8団体が一堂に会する機会に、次第の「その他」として、意見を交換する時間を設け、情報収集と意思疎通を進めて、当協会の事業推進の環境整備を進めるのが狙い。今回は①新型コロナ禍における事業実施の現状とこれからの見通し②新県民会館、仙台市音楽ホール（仮称）を含む文化施設の整備・改修計画の現状③の2点を取り上げた。軸に据えたのは、新県民会館

の概要を説明、平川新東北名誉教授による「歴史の中の宮城県」と題した講演をほさみ、各委員らが意見を交換した。

6月7日には幹事会を開催。事務局（県企画部内）のたたき台に基づいて協議。事業の具体化に向けて検討作業を進めた。

150周年は大きな区切り。「ポスト震災復興」を念頭に、「アフターコロナ禍」も意識し、人口減少社会化といった時代の

建設計画の現状把握。県有施設の再編に絡む県民会館の移転統合事業の今後のスケジュールを押さえた上で、適宜、当協会の意向を反映させるのが趣旨だ。監査委員による監査報告で、施

設再編問題において、要望書の提出に続く二次的対応を強く促されており、要請に応える意味合いも込めた。県芸術祭委の委員で、新県民会館の建設事業を所管する県消費生活・文化課の黒澤治課長は、

転換期を見据えた重要な県政プロジェクトに位置付けられる。重要な事業の推進メンバーに加わった意義は大きい。機運盛り上げへの協力を通じて、県との一層の関係緊密化が図られ、県芸術祭の知名度アップや、参加促進の好機になり得るからだ。

当協会は支援、協力の在り方を模索。具体的な事業として、

①歴史に埋もれた形になっている「宮城県民歌」を、改めて県

3月の基本構想を受けて、本年度内は手法等の庁内決定手続きを進め、令和4年以降、3カ年度で基本設計、実施設計を策定する流れを示した上で、基本、実施設計の段階ごとに案を固め

切る前に、当協会など関係機関等に説明することを確約。「文化施設は使われてこそ。使い勝手が極めて大事だ」と述べ、芸術文化団体等の意見を反映させる考えを明確化した。黒澤課長は会議後、施設を生

民に幅広く紹介する②宮城県芸術祭において県制150周年のロゴを使用する③次世代育成事業（宮城県各流子ども舞踊発表会、宮城県子供三曲演奏会）及び杜のみやこ工芸展等を冠、協賛事業に位置付ける一などを報告した。今後、正式に決まり次第、周知を図る予定で、各协会会员らの積極的な対応が求められる。

かすため、整備後の事業の企画、運営面で当協会等と連携強化を図る必要性にも言及。他県の動向を調査しながら、貸館機能を超えた事務所の管理の在り方を掘り下げ、当協会との協力関係の深化にも含みを持たせた。

仙台市音楽ホールの整備については、県芸術祭委の委員で、市文化振興課の横田大輔課長は、着手の段階ではないことに触れつつ、「必要な施設との認識は不変で、コロナの動向等も見定め対応する」との考えを強調した。

同じく委員で、河北新報社文化事業部の菅原誠部長は、芸術文化を中心にコロナ禍の下で自社が取り組む事業の状況について、見通しを含めて報告した。

案固める前に意見聴取

県、県民会館の移転統合で確約 県芸術祭委の折、担当課長説明

令和2年度正味財産増減計算書 [決算]

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

科目	公益目的事業会計					収益事業等会計	法人会計	合計
	公1	公2	公3	公益共通	公益小計			
I 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
基本財産運用益	0	0	0	1,002	1,002	0	0	1,002
受取入会金	0	0	0	550,000	550,000	0	550,000	1,100,000
受取会費	0	0	0	12,040,000	12,040,000	2,189,211	7,800,789	22,030,000
事業収益	4,459,500	1,627,000	0	0	6,086,500	565,000	0	6,651,500
受取補助金等	400,000	130,000	0	0	530,000	0	0	530,000
受取負担金	11,315,250	500,000	0	0	11,815,250	0	0	11,815,250
受取寄付金	123,300	40,000	0	180,000	343,300	0	0	343,300
雑収益	90,000	0	0	2,002,002	2,092,002	0	0	2,092,002
経常収益計	16,388,050	2,297,000	0	14,773,004	33,458,054	2,754,211	8,350,789	44,563,054
(2) 経常費用								
事業費	21,172,383	5,124,839	899,369	110,000	27,306,591	2,754,211	0	30,060,802
管理費	0	0	0	0	0	0	7,658,141	7,658,141
経常費用計	21,172,383	5,124,839	899,369	110,000	27,306,591	2,754,211	7,658,141	37,718,943
当期経常増減額	△ 4,784,333	△ 2,827,839	△ 899,369	14,663,004	6,151,463	0	692,648	6,844,111
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用								
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	9,064,985	2,827,839	899,369	△ 12,106,545	685,648	7,000	△ 692,648	0
当期一般正味財産増減額	4,280,652	0	0	2,556,459	6,837,111	7,000	0	6,844,111
一般正味財産期首残高	861,028	0	0	39,006,662	39,867,690	38,500	0	39,906,190
一般正味財産期末残高	5,141,680	0	0	41,563,121	46,704,801	45,500	0	46,750,301
II 指定正味財産増減の部								
一般指定財産への振替額	30,000	0	0	0	30,000	0	0	30,000
当期指定正味財産増減額	△ 30,000	0	0	0	△ 30,000	0	0	△ 30,000
指定正味財産期首残高	70,000	0	0	0	70,000	0	0	70,000
指定正味財産期末残高	40,000	0	0	0	40,000	0	0	40,000
III 正味財産期末残高	5,181,680	0	0	0	46,744,801	45,500	0	46,790,301

a : 公益目的事業経常費用計	b : 当年度年間全体経常費用	公益目的事業比率 (a / b)
27,306,591	37,718,943	72%

令和 2 年度事業報告

(1) 宮城県芸術祭の開催【公益目的事業 1】

Table with 6 columns: 事業種別, 事業名, 期 日, 会 場, 入場者数, 作品点数・出演会員等. Rows include 芸術祭全体, 展示関係事業, 文芸関係事業, and 人材育成事業.

(2) 芸術文化の振興に関する展覧会、講演会、研究会、発表会などの主催又は後援【公益目的事業 2】

Table with 6 columns: 事業種別, 事業名, 期 日, 会 場, 入場者数, 作品点数・出演者等. Rows include 鑑賞機会提供事業, 人材育成事業, and 後援事業.

(3) 国内及び国外との芸術文化の交流【公益目的事業 3】

Table with 6 columns: 事業種別, 事業名, 期 日, 会 場, 入場者数, 備 考. Row includes 東北・北海道芸術文化団体協議会交流事業.

(4) 会員の資質向上のための研修会等の実施及び調査研究並びに出版物の刊行など【他事業】

Table with 6 columns: 事業種別, 事業名, 期 日, 会 場, 入場者数, 備 考. Row includes 発行.

◎本年度中止事業について

Table with 3 columns: 事業種別, 事業名, 担当部門. Rows list various activities like 演奏関係事業, 文芸関係事業, 人材育成事業, etc.

桑原さん、現代工芸賞 陶磁「勢動」に躍動感

工芸の代表的な全国公募展「第59回日本現代工芸美術展」で、工芸部(陶芸)所属の桑原リエさん(宮城県美里町在住)が現代工芸賞に選ばれた。同展は水準の高さで知られ、入賞者は東北でも数少ない。

受賞作は陶磁「勢動」。高さ47センチ、横56センチ、奥行42センチの深い鉢型の器で、流線形の文様から伸びるように口縁が広がる躍動感のある造形が特徴。工房のある美里町の豊かな自然を爽やかに吹き抜ける風をイメージした。透明感のある白色も印象的で、立体感の表現を意識し制作したという。作陶歴25年。工芸部運営委員の相澤正樹さんらに師事し、研さんを積んできた。2度目の応募での快挙。桑原さんは「指導いただいた多くの皆さまのおかげ」と受賞を喜びつつ、「今後、もっとも精進してまいりたい」と、さらなる高みを目指す。

台湾国際芸術交流彩華奨賞 飯野哲雄さん、台湾から表彰

絵画部(洋画)の運営委員、飯野哲雄さん(宮城県村田町在住)が、台日芸術博覧会執行委員会から「台日国際芸術交流彩華奨」を受賞した。3月26、28日、台湾・台北市松山文創園區を会場に開催されたアートイベント、「芸術博覧会2021」に作品を提出、高い評価を受けた。同博覧会は2017年に創設。これまで台北駅中央コンコース、市政府新庁舎などを

使って開催し、今回、第4回となる。日台双方の芸術家(美術家)が多数の作品を展示。市民らが味わい深い作品を鑑賞した。今年の会場、松山文創園區は信義区にあり、日本統治時代に建造された歴史的建造物が残存。古い倉庫群をリノベーションしつつ活用、先端文化発信ゾーンとして発展しているという。

新賛助会員

(団体)
◇石堂建設株式会社 代表取締役 役 石堂 昌宏 様

事務局日誌

会務報告

【監事会】4月12日
令和2年度事業報告及び会計監査
【第1回理事会】4月19日
令和2年度事業報告及び収支決算について

令和3年度定時総会の開催について
賛助会員の入会について
【第58回宮城県芸術祭委員会】6月7日
【第58回宮城県芸術祭について(定時総会)】6月12日
令和2年度事業報告及び収支決算について
【第1回部長会議】6月28日
【第58回宮城県芸術祭について(第58回宮城県芸術祭実行委員会)】

後援

- ☆第51回蔵王写生会 7月2、7日
- ☆んだいメディアアテーク 7月2、11日
- ☆第56回宮城水彩展「栗原展」 栗原文化会館 7月22、25日
- ☆第51回宮城書畫院展併催教育部展 大崎市民ギャラリー 7月23、28日
- ☆第43回仙台の四季を描く絵画展 7月23、28日
- ☆んだいメディアアテーク 8月6、11日
- ☆2021みやぎを魅せる書展 8月6、11日
- ☆んだいメディアアテーク 8月6、11日
- ☆第49回宮城野書道展 8月6、10日
- ☆んだいメディアアテーク 8月7、10日
- ☆第35回記念日洋展仙台会場 2021日洋会東北支部展 8月13、18日
- ☆「書芸苑」誌900号記念宮城野書人会展併催学生書道展 8月20、25日
- ☆んだいメディアアテーク 9月3、6日
- ☆第68回河北書道展 9月9、12日
- T F Uギャラリーミニモリ

☆2021仙台オペラ協会第45回記念公演「魔笛」 9月5日
東京エレクトロンホール宮城 9月23日
☆寿和枝会
電力ホール
☆姉歯けい子ソプラノリサイタル 10月10日
日立システムズホール仙台
☆第34回みやぎ発明くふう展及び第25回みやぎ未来の科学の夢絵画展 10月19、23日
東北電力グリーンプラザ
☆クオータースタジオ芸術祭「アールストテクネ」 10月30日、11月7日
クオータースタジオ

会員の入賞・入選など

- ◇第5回新日春展
▽入選 新藤圭一、山本政彰、桶谷光代、小泉百合子
 - ◇第59回日本現代工芸美術展
▽〔竹籐〕入選 林恵美子
〔染織〕入選 古山文字
- 受贈書()は寄贈者
『社Ⅱ―社人同人合同句集―』(川柳社人社)、『歌集 白き病室』(原田夏子)、『歌集 花と濡れつつ』(上林節江)、『詩集 風の岸辺』(玉田尊英)

謹弔

賛助(個人) 高橋 勲 殿 令和2年11月30日
茶道部(織田流煎茶道) 鹿野 南栄 殿 令和2年12月8日
書道部 米野 耕祥 殿 4月14日
絵画部(日本画) 柴田 慶夫 殿 5月28日

けやきの譜

前政権を引き継いだ説明しない政治、ご飯論法ではぐらかしい質問に答えられない不正に不信感が積み重なるばかりだ。こうした中、市民の命を二の次にオリンピックが開催されている。誰の利益になるのか。大きな社会的な出来事の本質は、金の流れで把握できるとする学者がいる。その線で考えれば、五輪を7千時間放映し、放送局史上で最も高収益の五輪になると公言する米国のテレビ局、その周辺に群がる利権集団、ここから多額の収入を得る国際オリンピック委員会(IOC)となるのか。これらに同調し、なし崩し的に開催を推し進めた現政権は、命と暮らしを軽視して最低限の倫理さえ踏み外していないか。民意を示す時は遠くないか。▼先日、宮城県芸術協会の総会が2年ぶりに通常の形で開催された。震災後10年、今秋の芸術祭は、この節目に幾多の企画が予定されている。芸術の成果を味わい尽くしたいものである。もちろん、県民の意向に寄り添い、最高度の感染対策を施しながら。(英)